

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の 配当基準日	3月31日 (中間配当を行う場合は 9月30日)
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区 八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区 八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 (https://www.miraca.com/) ただし、やむを得ない事由に よって、電子公告による公告 をすることができない場合に は、日本経済新聞に掲載し て行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、 株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等に なります。	みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱で きませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右 の「特別口座の場合」の郵便 物送付先・電話お問い合わせ 先・各種手続お取扱店をご利 用ください。	特別口座では、単元未満株式の買 取・買増以外の株式売買はできませ ん。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく必 要があります。

中間配当に関する決議通知はがき廃止のお知らせ

これまで当社の配当に関する取締役会決議のお知らせにつきましては、「中間配当に関する取締役会決議ご通知」と題した郵便はがきをお送りしておりましたが、当中間配当より、同はがきの郵送を廃止させていただくことにいたしました。

今後は、当社ウェブサイト (<https://www.miraca.com/>) にてご案内させていただきますので、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

みらかホールディングス株式会社

〒163-0408 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビルディング
お問い合わせ: IR広報部 TEL 03-5909-3337
<https://www.miraca.com/>



Miraca
みらかホールディングス

証券コード: 4544

第68期 中間株主通信

68th First-half Business Report

2017.4.1 > 2017.9.30



Contents

グループメッセージ	2
Top Message	3
みらかグループの事業概要	5
特集① 「ルミパルス®」は25周年!	6
連結財務ハイライト	7
セグメント別情報	8
特集② みらか中央研究所	9
TOPICS	11
会社概要	13
株式の状況	14

人と医療のまんなかで、

私たちの仕事、

それは何百万、何千万というからだのデータを通して、
そして医療の現場で、人々の健康を見守っている仕事です。

その仕事は、表に見える仕事ではないけれど、
今日も人々と医療の間で健康を支えている。

私たちには、私たちだけが見えている未来があります。
それはたくさんのデータが教えてくれる、いのちの未来。

大きな世の中の変化の中で、
私たちにしかつくりだすことができない、健康の未来。

私たちは、見つけたい。

誰もが健康で長く生きられる社会のために、
まだ誰も気づいていない、人間のからだの可能性を。

私たちは、動きだす。

見守るだけでなく、何が大切かを自らが見つけ出し、
人々と医療の進歩を、確かな信頼でつなげていくために。

人と医療のまんなかで、

変わらない使命のために、
私たちはひとつになって、変わり続ける。



将来の成長に向けて 中期経営計画『Transform! 2020』を始動

代表執行役社長 竹内 成和

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2018年3月期中間期の業績概況

当中間期の業績につきましては、売上高は1,039億5百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は129億9百万円（前年同期比12.3%減）となりました。

売上高は、海外受託臨床検査事業以外の事業が伸長したことに加え、為替影響もあり、増収となりました。利益面では、主に海外受託臨床検査事業の減収、および各事業で成長のための先行

費用が発生したことにより減益となりました。

また、海外受託臨床検査事業において、米国にて病理検査事業を行うMiraca Life Sciences, Inc.の持株会社であるCDx Holdings, Inc.の株式譲渡に関する契約を今年9月に締結したことにより減損損失を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純損失は50億71百万円となりました。

中期経営計画の進捗

当社は、今年5月に中期経営計画『Transform! 2020』を発表し、重要施策への取り組みとグループの改革に着手いたしました。

受託臨床検査事業では、中期経営計画の重要施策である院内検査事業を強化するため、専門の営業チームを立ち上げ、お客さまに対してグループ内の検査機器を利用した提案を積極的に行っております。

一方、臨床検査薬事業では、国内市場は大型検査機器の世代交代時期を迎えており、その需要を取り込むために、高処理能力をもつ最新検査機器「ルミパルス®L2400」の設置を推進しております。

また、R&Dの強化施策の1つとして、7月に合同会社みらか中央研究所を設立いたしました。将来の成長ドライバーとなる新しい事業の芽を生む基礎研究の中核組織として、更なる施設の拡張、人材の確保に努めております。

長期的な成長に向けて

グループの一体化につきましては、「みらかブランド」の確立、人事制度の統一、IT基盤の整備、

社外広報の推進などに取り組んでまいりました。併行して、改革を進めるために全国各地のグループ会社拠点に足を運び、グループ一体化の必要性について従業員と直接対話を行ってまいりました。今後も、従業員とのコミュニケーションを重視し、グループ内人材交流の促進などグループ一体化に注力していく所存です。

また、グループの新しい拠点となる施設の建設について検討を進めており、その建設地として東京都あきる野市内の土地の売買契約を締結いたしました。

下期におきましても、将来の飛躍的かつ持続的な成長のために、引き続き重要施策の推進と基盤整備のための積極的な投資を進めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

みらかグループの事業概要

みらかグループは、ヘルスケア分野で臨床検査を中心に以下の3つの事業を展開しております。

- ①受託臨床検査事業……… 医療機関より患者様から採取した検体をお預かりし、病気の有無や健康状態の検査を行います。
- ②臨床検査薬事業……… 臨床検査に使用される検査試薬や検査機器の開発・製造、国内外への販売を行います。
- ③ヘルスケア関連事業……… 滅菌受託や治験支援など様々な医療関連サービスを提供します。



「ルミパルス®」は25周年!

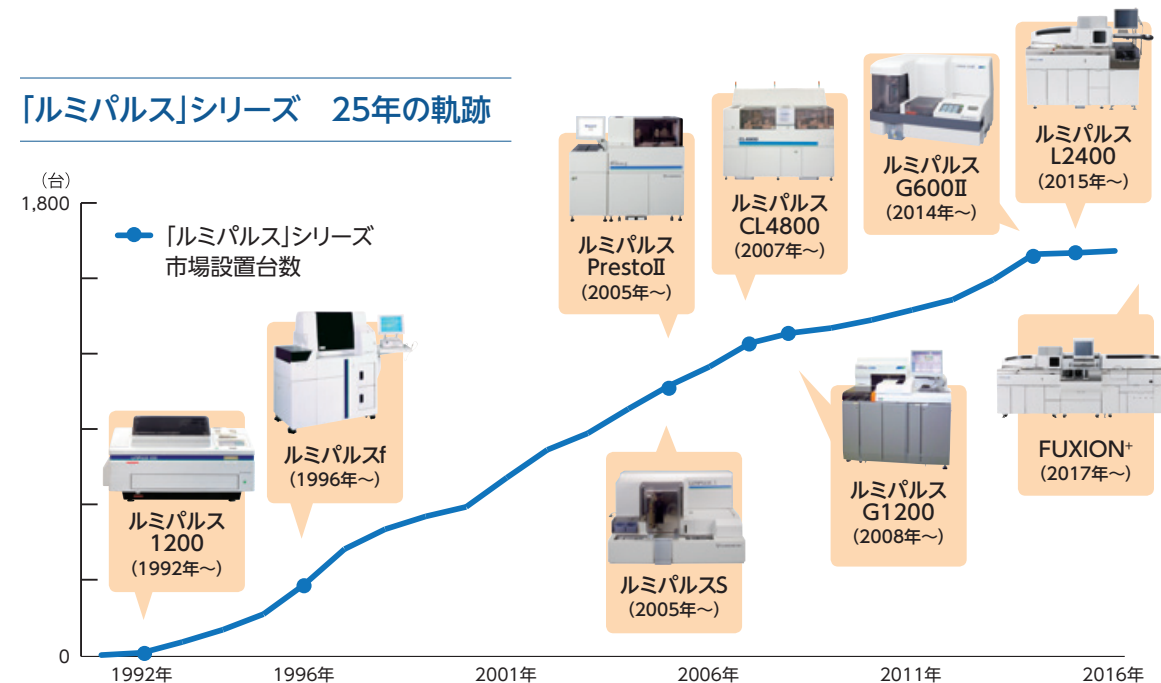
みらかグループ（富士レビオ）の主力製品である「ルミパルス」シリーズは、今年で発売から25周年を迎えました。

1992年、すでに免疫学的検査のリーディングカンパニーであった富士レビオは、その高い試薬開発技術を活かした高感度の全自動検査システムの開発に成功し、「ルミパルス1200」を発売しました。

その後、試薬項目を感染症やがん、生活習慣病など幅広い領域に拡充し、また処理能力の異なる機器を提供することで、多くの「ルミパルス」シリーズが検査現場を支えてまいりました。

現在では約1,500台が国内外の医療機関や検査センターでご愛用いただいております。名実ともに“世界のルミパルス”となっております。

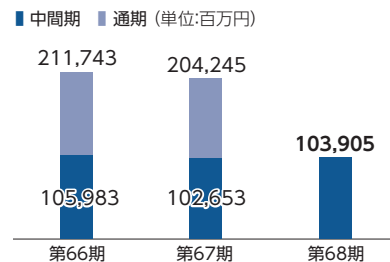
「ルミパルス」シリーズ 25年の軌跡



連結財務ハイライト

売上高

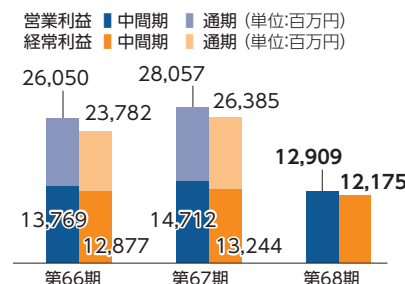
売上高
1,039億5百万円
前年同期比 1.2%増



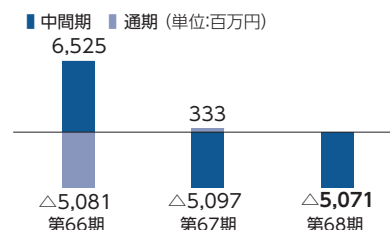
利益

営業利益
129億9百万円
前年同期比 12.3%減

経常利益
121億75百万円
前年同期比 8.1%減



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益/損失
△50億71百万円



前中間期からの主な増減

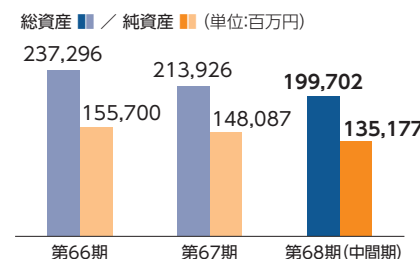
当中間期の売上高は、海外受託臨床検査事業の売上が減少したものの、国内受託臨床検査事業および臨床検査薬事業の伸長により増収となりました。

利益面では、減価償却方法の変更により固定費が減少したものの、各事業で成長のための先行費用増、および海外受託臨床検査事業の減収に伴い減益となりました。

なお、連結子会社CDx Holdings, Inc.の株式譲渡に係る合併契約の締結に伴い、当契約で合意された公正価値と簿価純資産との差額を減損損失として279億円計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は50億71百万円となりました。

資産

総資産
1,997億2百万円
純資産
1,351億77百万円

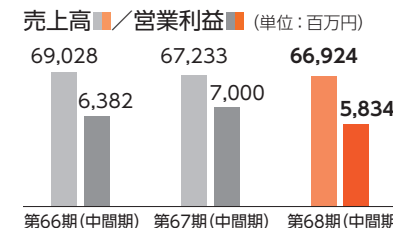


前期末からの主な増減

当中間期末の総資産は、投資その他の資産（主に長期繰延税金資産）が増加した一方で、のれん、顧客関連無形資産が減少したため、前期末（2017年3月末）より142億24百万円減少し、1,997億2百万円となりました。

セグメント別情報

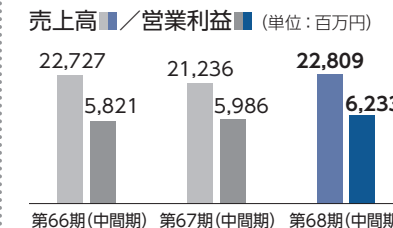
受託臨床検査事業



国内事業で増収となったものの、海外事業で受託量の減少および価格下落の影響により減収となりました。利益面では、減価償却方法の変更により固定費が減少したものの、国内事業での成長のための先行費用の発生、海外事業の減収に伴い減益となりました。

これらの結果、売上高は669億24百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は58億34百万円（前年同期比16.7%減）となりました。

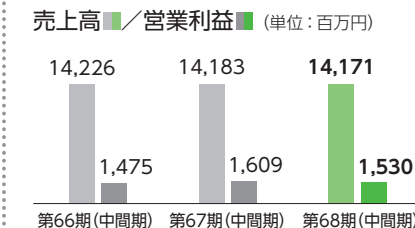
臨床検査薬事業



国内外の製品販売が伸長したことにより増収となりました。利益面では、増収による収益が成長のための先行費用を上回ったため、増益となりました。

これらの結果、売上高は228億9百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益は62億33百万円（前年同期比4.1%増）となりました。

ヘルスケア関連事業

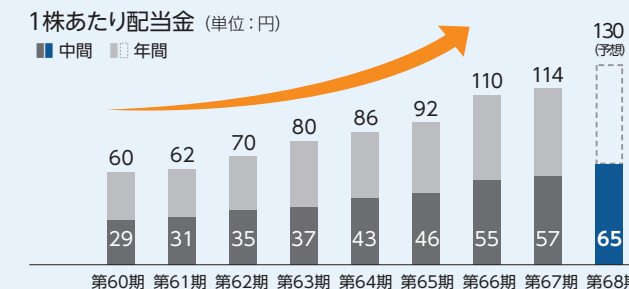


滅菌事業で新規顧客獲得等による増収があったものの、治験事業は減収となりました。

これらの結果、ヘルスケア関連事業の売上高は141億71百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益は15億30百万円（前年同期比4.9%減）となりました。

配当金について

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要施策の1つとして位置付けております。配当については、連結配当性向の基準を特別損益等特殊要因を除いた純利益の50%以上としております。当期の中間配当金は1株につき65円とし、年間配当金は130円を予定しております。





みらか中央研究所

グループの潜在力を融合し 医療・ヘルスケアで 新たな産業の創出を目指す

みらかグループでは、中期経営計画『Transform! 2020』の重要施策の1つとして、今年7月、みらか中央研究所を設立しました。小見和也社長兼所長が設立の目的や将来へ向けた取り組みなどについてご説明いたします。

る研究者・技術者です。グループの強みである医療機器・試薬開発経験者、臨床検査開発経験者はもちろん、生化学・遺伝学などの基礎研究者、情報科学・AI（人工知能）領域の研究者など多分野より若手人材を積極的に採用しており、多様かつ専門性の高い研究集団となっております。

潜在価値を秘めた研究領域

当研究所では、次の3つの領域を中心に研究を進めております。

①革新的分析プラットフォーム

例えば、従来は測定できなかったごく微量・低濃度の血中成分を簡単かつ迅速に測れる検査技術や、

現在は対象ごとに分かれている分析装置を1種類の機器に集約できる技術といった革新的な検査技術の可能性を探索しております。

②医療イノベーション基盤技術

生体内の高度な各種ネットワークのメカニズムを解析することで、病気の予防や治療、薬効向上、さらには健康促進などにも役立つ情報を獲得・活用していきたいと考えております。例えば、細菌フローラの研究などがその1つです。また、近年の医療技術の革新により、医療サービスや検査の複雑化・高度化が進んでおります。医療の新しい動向を先導できるよう、大学・医療機関を中心に積極的に共同研究を進めております。

③医療情報/インフォマティクス/AI

いまやライフサイエンス全般の研究開発においても、情報科学やデータ解析技術は不可欠となっております。みらかグループが有する国内最大級の臨床検査データを、AI等も活用し、いかに健康や医療に資する情報として活用していくか、といった点で極めて社会的意義の大きな研究テーマとして捉えております。

「新たな産業」の創出に向けて

私たちの目標は、前述した研究領域を中心に、技術・事業モデルの革新と融合からそれまでにない“新しい産業”を創出することです。単なる新事業ではなく、国内からより大きな裾野をもつ新たな産業を

生み出せるかどうか——これはみらかグループだけでなく、日本の未来にとっても極めて重要な課題と言えるでしょう。

臨床検査薬事業と受託臨床検査事業で国内トップクラスの企業を擁するみらかグループの高いポテンシャルを活かしながら、世の中が驚くような研究成果や新産業を提示していきたいと考えております。時代を先取りしていく今後の私たちの研究にどうぞご期待ください。



合同会社みらか中央研究所 Miraca Research Institute G.K.

設立日	2017年7月3日
資本金	1億円
職務執行者	小見和也
事業コンセプト	みらかグループ全体の価値向上、事業成長のための研究・技術開発
所在地	東京都八王子市小宮町51番地

(合)みらか中央研究所
社長兼所長
みらかホールディングス(株)
R&D統括部長

小見 和也

医療イノベーションを先導するために

当研究所は、「サイエンスを起点としてライフサイエンス・医療のイノベーションを先導する」というミッションのもと、「分析技術」「医療サービスインフラ」「情報」の革新・統合・協業を通じて、みらかグループの価値向上、さらには新たな産業の創出に繋がるような研究・技術開発を推進すべく設立されました。グループ内の基礎研究機能を集約・強化しながら、グループ内外との協業を推進し、研究成果の事業化を目指しております。

当研究所は、基礎研究部と研究事業部で構成されており、社員の約半数が博士号(Ph.D.)を保有す

TOPICS

みらかグループ本社 受付ホールのリニューアル

2017年8月、みらかグループ（東京都新宿区）の総合受付をフルリニューアルいたしました。

新しい受付は、白を基調とした光溢れる空間になっております。また、お客さまがみらかグループの事業をより身近に感じていただけるよう、検査ラボラトリーの映像上映や「ルミパルス®」シリーズの機器・試薬の展示スペースなども設けております。



みらかグループ本社の新受付ホール

富士レビオ AACC展示会へ出展

世界最大の臨床検査に関する展示会（AACC Clinical Lab Expo）に富士レビオが出展を行いました。AACCは、臨床検査医学に関するグローバルで伝統的な学会



富士レビオの展示ブース

であり、毎年同期間に開催される展示会にも世界中から多くの研究者や企業関係者が来場されます。

今年は最新機種である「ルミパルス®L2400」とともに、米国展開を行っている「ルミパルス®G1200」の展示を行い、富士レビオ製品を世界にアピールする機会となりました。

テレビ朝日「サタデー・ステーション」による エスアールエル遺伝子解析の取材

テレビ朝日系列の「サタデー・ステーション」の特集「がんゲノム医療への期待」にて、エスアールエルの遺伝子解析の様子が取材されました。エスアールエルは、世界最先端の産学連



エスアールエル 八王子ラボラトリーでの撮影の様子

携プロジェクト「SCRUM-JAPAN※」に検査実施機関として参画しており、NGS（次世代シーケンサー）を用いた遺伝子解析の取り組みが紹介されました。

※全国約250医療機関と16社の製薬会社が参画し、アカデミアと臨床現場、産業界が一体となって、日本のがん患者さんの遺伝子異常に合った治療薬や診断薬の開発を目指すプロジェクト

辻井伸行 協賛コンサートの開催

みらかグループは、辻井伸行氏の「音楽と絵画コンサート」に特別協賛しております。辻井氏による美しいピアノ演奏に合わせて著名絵画や写真を楽しめる新しいコンサートとして、2017年11月～年末にかけて全国で開催しております。



長崎、佐賀、東京、神奈川、兵庫、大阪、徳島、愛媛、愛知、岩手、青森にて順次開催しております。

グループ一体化に向けた取り組み

みらかグループでは、中期経営計画の中心施策として、グループ一体化を掲げております。

その取り組みの1つとして、この



ワークショップの様子

上期では、グループ内の従業員の交流を目的として、グループ横断でのワークショップを開催いたしました。

また、7月より人事制度の統一に着手し、グループ共通の評価制度もスタートいたしました。

「知って、肝炎プロジェクト」への参画

みらかグループは、厚生労働省 肝炎総合対策推進国民運動の「知って、肝炎プロジェクト」に参画しており、肝炎検査の啓蒙・普及にも取り組んでおります。

2017年7月26日開催の「知って、肝炎プロジェクト Save The Life 2017」イベントでは、みらかグループの取り組みについて発表いたしました。



「知って、肝炎プロジェクト」ポスター

会社概要 (2017年9月30日現在)

社 名 みらかホールディングス株式会社
 本 社 所 在 地 〒163-0408
 東京都新宿区西新宿2-1-1
 新宿三井ビルディング
 TEL: 03-5909-3335 (代表)

資 本 金 9,047百万円
 経 営 体 制 指名委員会等設置会社
 従 業 員 数 6,571名 (連結)

役員一覧

取締役

竹内成和
 鈴木博正
 石黒美幸 (社外取締役)
 伊藤良二 (社外取締役)
 高岡浩三 (社外取締役)
 山内進 (社外取締役)
 天野太道 (社外取締役)

執行役

竹内成和 (代表執行役社長)
 北村直樹
 大月重人
 木村博昭
 田澤裕光
 羽生和之



後列左から：山内進、伊藤良二、高岡浩三、天野太道
 前列左から：鈴木博正、竹内成和、石黒美幸

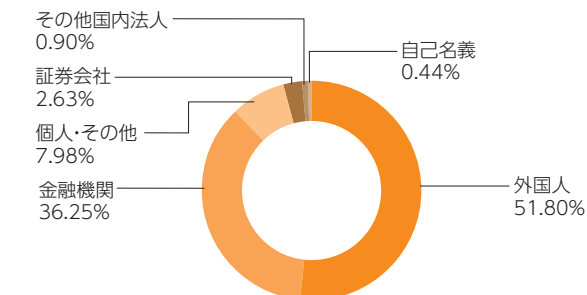


後列左から：田澤裕光、木村博昭、羽生和之
 前列左から：北村直樹、竹内成和、大月重人

株式の状況 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株
 発行済株式の総数 57,325,063株
 1単元の株式数 100株
 株主数 5,153名

所有者別株式数の状況



大株主の状況

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,168.1	7.30
JP MORGAN CHASE BANK 385632	3,719.8	6.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,475.5	4.34
株式会社みずほ銀行	2,132.1	3.74
第一生命保険株式会社	2,000.7	3.51
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,942.4	3.40
日本生命保険相互会社	1,538.6	2.70
明治安田生命保険相互会社	1,272.2	2.23
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	1,109.0	1.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	1,007.8	1.77

- (注) 1. 持株比率は自己株式252,038株を除いて計算しております。
 2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社および日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数は、全て信託業務に係るものであります。
 3. 株式会社みずほ銀行の株式数には、株式会社みずほ銀行が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式2,131.5千株 (持株比率3.73%) を含んでおります。
 (株主名簿上の名義は、「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社」であります。)



表紙の作品について

表紙の絵は、大石慶彦さん作「富士と丹頂鶴」(パラリンアート作品)です。

※「パラリンアート」とは、障がい者の社会的参加と経済的自立を彼らの芸術的表現を通じて支援する、一般社団法人障がい者自立推進機構による活動です。みらかグループは「パラリンアート」を支援します。